



# 薬学部だより

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokushima University



徳島大学薬学部  
July 2020

Vol.26

## 巻頭言

### 希望を胸に！



徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Sano Shigeki

**新**型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、今年度は薬学部（薬学科40名、創製薬科学科41名）、大学院薬科学教育部（博士前期課程創製薬科学専攻42名、博士後期課程創製薬科学専攻9名、博士課程薬学専攻1名）合わせて133名のみなさんを新しい仲間として迎えることができました。残念ながら「令和2年度徳島大学入学式」は中止となってしまいましたが、徳島大学薬学部の教職員を代表して、心からのお祝いと歓迎の意を表します。

さて、4月16日の夜には日本全国が新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象地域とされ、新年度が始まって1ヶ月半が過ぎようとしている現時点において、対面での講義や演習、学生実習等は実施

できない状況が続いています。研究室での実験も滞っており、卒業論文や学位論文の作成にも大きな影響が出始めています。第I期の薬局実務実習は緊急事態宣言の発令により中断され、在宅実習へと切り替えられました。就職活動においても、対面での面接試験がWeb面接に変更されるなど、これまでとは異なる対応を余儀なくされています。徳島県外への不要不急の外出は制限され、県外に移動した場合には帰県後に14日間の自宅待機が求められます。特に学部新生の皆さんは、課外活動も禁止され、大学生になったものの何をどうしていいのか、手探りの状態が続いているのではないのでしょうか。数ヶ月前には誰もが予想だにできなかった事態に陥り、いつ元に戻るかも見通せない状況にあって、世界中の人々が不安、恐怖、苛立ちを感じ、大きなストレスにさらされています。

突如訪れた非日常的な生活の中にあって、英国のエリザベス女王のメッセージは、英国民のみならず私たちにも希望と勇気を与えるものです。“Together we are tackling this disease, and I want to reassure you that if we remain united and resolute, then we will overcome it.” “This time we join with all nations across the

globe in common endeavour, using the great advances of science and our instinctive compassion to heal. We will succeed — and that success will belong to every one of us.”（4月5日のメッセージより抜粋）4月21日に94歳の誕生日を迎えられたエリザベス女王ですが、なおもかくしゃくとして公務に励まれ、イースターの前夜の4月11日には“ We know that coronavirus will not overcome us. As dark as death can be — particularly for those suffering with grief — light and life are greater. May the living flame of the Easter hope be a steady guide as we face the future.”と語りかけておられます。

新型コロナウイルス感染症の克服へ向けて、感染や重症化を防ぐワクチンや治療薬の開発が世界中で進められる中、改めて『創薬研究』を基盤とする薬学の重要性を再認識するとともに、薬系大学が果たすべき社会的責任の大きさを痛感した次第です。新型コロナウイルス感染症の早期の収束を祈念しつつ、薬学部の学生、教職員のみなさんと共に明るい未来を目指して、希望を胸に歩んで行きたいと願っています。

## 令和3年度からの新6年制について

### 概要



薬学科長

### 土屋浩一郎

Tsuchiya Koichiro

**徳**島大学薬学部は1922年に「薬の創製（創薬）をめざす」という長井長義博士の進言で設立され創薬研究を中心に発展してきましたが、創立100年を目前にした2021年（令和3年度）からはその伝統を発展させた、「医療の現場からの問題点を医薬品創製・開発に結びつける先導的人材

の育成を強力に推進する薬学部」として、従来の2学科制から薬剤師資格を基盤とする1学科80名（6年制薬学科：新6年制）募集へと大きく変化します。新6年制では従来の創製薬科学科の特徴を反映させた創製薬科学科研究者育成コース（研究を重視し、将来の薬学研究者、薬学教育者となる人材の養成）と、現在の薬学科を発展させ、高度先進医療および地域課題に対応できる先導的薬剤師育成コースを設置します。そして新6年制では、研究マインドを持った薬剤師の育成を通じ、これまで創製薬科学科で行われている「研究」の内容を薬学科に融合することで、徳島大学薬学部が教育目標に掲げている「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）」の育成を強力に推進します。

新6年制のもう一つの特徴として

は、創製薬科学科研究者育成コースの中に PharmD-PhD コースを設置して研究を継続して学位を先取りできる準備を進めています。このコースでは“飛び級”により5年次から大学院に進学し、学位を取得後再び学部に戻ることで、一番伸びる時期である20代前半に集中して研究に取り組む環境を提供することにより、徳島大学薬学部版エリートを養成するとともに、学部に戻り薬剤師免許取得も可能とするよう、制度を設計する予定です。

このように新6年制では、これまで幾度となく取り上げられては机上論に終わっていた『Pharmacist-Scientist』の養成を具体的に進める事になります。新6年制が完成するのは令和3年度入学の学生が卒業もしくは大学院を終了する6～10年先になりますが、その時に向けて教職員一丸となって取り組む所存です。皆様方の一層のご協力とご支援をよろしくお願いします。

### カリキュラム



教務委員長

### 藤野裕道

Fujino Hiromichi

**徳**島大学薬学部では、2021年度の入学生から6年制の教育課程へと一本化します。それに伴い、創製薬科学科で培われてきた教育・研究体系を発展的に融合させた「新6年制課程」をスタートさせます。徳島大学薬学部は、これまでの4年制教育課程をすでに廃止した岐阜薬科大学、大阪大学薬学部次ぐ、3校目の国公立薬系

大学になります。新設されるコースは、「創製薬科学科研究者育成コース」と「先導的薬剤師育成コース」。定員はそれぞれ30名および50名です。そして「先導的薬剤師育成コース」は、さらに定員40名の「研究型高度医療薬剤師」と、定員10名の「研究型地域医療薬剤師」を育成する2つのプログラムを設けます。それぞれに特徴的なカリキュラムとして、「創製薬科学科研究者育成コース」には、医療を理解した研究者を育成するため、【学術論文作成法】、【創薬実践道場】、そして【英語プレゼン実践講座】などを設けます。「先導的薬剤師育成コース」の中でチーム医療や先進医療において指導的役割を担う薬剤師を育成する「研究型高度医療薬剤師」プログラムには【薬物療法マネジメント入門】、また地域医療において指導的役割を担う薬剤師を育成する「研究型地域医療薬剤師」プログラムには、【地域医療アドバンスト演習】などを設けます。3

年次前期から、各コースに分かれて学修しますが、コース分け前の1、2年次において、全てのコースに共通する特徴的なカリキュラムである、【医療における人間学】、【コア DDS 講義】、【キャリアパスデザイン講義】、さらには【研究体験演習】などの共通専門科目の履修により薬学の基礎を修得します。「新6年制課程」では、全ての学部生が薬剤師国家試験の受験資格が得られますが、研究を極めて、薬剤師免許を持った創薬研究者を将来的に目指す学生のための「PharmD-PhD コース」という、エリート研究者養成コースも設けてあります。これからの「新6年制課程」カリキュラムを修養する徳島大学薬学部の卒業生は、これまで以上に自ら活躍できる場を積極的に開拓できる人材である、進化した《インタラクティブ YAKUGAKUJIN》として、社会で活躍されることを信じています。

## 研究紹介

### ■ 時代を超えて伝えられた天然資源から創薬・機能性素材シーズを探る



生薬学分野 教授

**柏田 良樹**

Kashiwada Yoshiki

**生** 薬学は、天然資源に関する科学的な研究を行う分野で、含有される化合物の生物活性などに注目して創薬を目指す研究、機能性を有する天然物の食品、化粧品、農業分野等における応用研究、生物活性や機能性をもった天然物、あるいは新規化合物の生産を目的とする生合成経路や遺伝子操作の研究など、幅広い分野の研究が含まれています。

私共は、天然資源から創薬シーズ、並びに機能性素材シーズの探索と、見出したシーズを応用することを目指した研究を行っています。研究対象とする天然資源については、人類が蓄積してきた知識・経験の中には、創薬・機能性素材のシーズとなる重要な情報があるという考えのもとに、海外の大学や研究所の研究者との交流を通して、学術協定を締結するなどして共同で薬物調査などを行い、研究素材を探索しています。それぞれの地域の民族文化を基盤として、日本とは違った気候や土壌に生育する天然資源を伝統的に健康維持等に利用されてきた素材が見出されます。以前は、中国雲南省へ薬物調査に行っていましたが、その後、モンゴル、広西壮族自治区で現地研究者と

薬物調査を行い、共同研究を進めています。また、ウズベキスタン、バングラデシュ等の共同研究者との交流も行っていきます。

この研究に関する最近の成果を紹介します。白樺に寄生する「チャーガ（白樺茸）」というキノコがあります。寄生された白樺は、最終的には枯れてしまうことから「白樺のがん」とも呼ばれます。ロシアやその周辺では抗がん作用を期待してチャーガが使用されているようで、ノーベル文学賞受賞者のアレクサンドル・イサーエヴィチ・ソルジェニーツインの作品、「がん病棟」にも取り上げられています。一方、モンゴルのある地域では、チャーガ抽出物が健康な毛髪の維持のために、伝統的に洗髪に利用されていることが分かりましたが、黒い髪の維持（染髪）を目的に使用されているとの報告があるのみです。我々は染髪のみだけでなく、育毛・発毛効果もある可能性があると考え、民族薬物研究の一環として、「チャーガ」についての研究を行いました。チャーガの抽出エキスについて、毛乳頭細胞に対す

る作用を調べたところ、期待した細胞増殖促進効果が認められたので、含有成分探索を行いました。得られた化合物は、既知の化合物でしたが、それらにはミノキシジルよりも優れた毛乳頭細胞増殖促進作用が認められたので、共同研究を行っている会社と徳島大学とで特許出願し、早期審査により特許が昨年認められました。その素材を用いた製品が近々出る予定になっています。本研究については、見出した化合物の活性や物性を改善することを目指してさらに研究を進めています。

もともと、薬学部で研究を行っているため、創薬につながる成果を期待した研究も進めています。天然物の構造多様性は、化合物ライブラリーとして重要です。生物活性評価を行っていただけの研究者との共同研究で、私共の保有している化合物から新たな機能性をもった化合物を見出していただけですが、それらを「種」にして、新たな機能をもった化合物を見出せばと考えて研究を進めています。



モンゴル国立医科大学の研究者との薬物調査に

## AI教育の展望

### ■ デザイン型 AI 教育研究センターの設置について



機能分子合成薬学分野 教授

#### 大高 章

Otaka Akira

**本**年4月に全学組織としてデザイン型 AI 教育研究センターが設置され、大高が同センターの教員を併任することになりました。本センターは、高石学長補佐をセンター長とし、その下に AI 教育推進部門、AI 研究開発部門、AI 社会実装部門を有し、徳島大学における AI 教育・研究推進に

あたり指導的役割を果たす部門と位置付けられています。これら3部門の中で、大高は AI 教育推進部門に所属いたします。全学的な AI 教育センターの立ち上げ前から、薬学部では文部科学省への概算要求事業として「薬学的な視点からの AI そしてデータサイエンス教育」についての事業提案を種々構想して参りました。今回デザイン型 AI 教育センターの設置に伴い、薬学部からも本事業に積極的に参加することになり大高がセンター教員を併任する運びとなりました。さて、AI そしてデータサイエンスを基盤とする産業の育成は、これからの我が国の発展を左右するものと考えられます。そのような観点から、政府も大学に、これらの産業を支える情報リテラシー教育を受けた人材の供給を強く求めています。本センター構想は、政府のこの方針に従って立案されたもので、徳島大学内の活動にとどまることなく、外部

とも連携し人材育成を図ろうとするものであります。薬学部としては、医療人育成教育において未整備であった医薬品情報教育の確立を手掛かりとして、多様な医薬品情報と他の医療ビッグデータを統合し、創薬や薬物療法に展開できる能力を有する人材の育成に資する教育基盤の構築を進めて参りたいと思っております。高齢化・医療費高騰が問題となる現在、薬物開発の効率化や安全有効な薬物使用の低コスト化等の課題に、多様かつ膨大な医療情報を編集し、新たな価値を創造しつつ、問題解決に当たる能力を持った人材が求められることに疑いの余地はありません。このような人材育成を、デザイン型 AI 教育研究センター活動を通じて、取り組みたいと考えております。薬学部に関係する多くの皆様のご協力を期待する次第です。

## 研究部シンポジウムの紹介

### ■ 令和元年度徳島大学大学院医歯薬学研究部市民公開講座報告



医薬品機能生化学分野 教授

#### 土屋浩一郎

Tsuchiya Koichiro

**徳**島大学医歯薬学研究部では年間行事として公開シンポジウムと市民公開講座を実施しており、令和元年12月8日に薬学部が市民公開講座を開催しました。

市民公開講座ではその時々市民生活に直結した学部に関連する話題を取り上げていますが、今回は改正医薬品医療機器等法案（改正薬機法案）が令和元年11月27日に可決成立したことから『徳島県の薬と健康：これからの薬剤師・薬局について』というテーマで講演会を計画しました。この改正は明治維新になぞらえ、薬局維新と呼ぶ人もいるほど大きな変革で、その影響は薬剤師だけでなく、看護師、医師、歯科医師等の医療職、さらには地域の医療システム、そして利用者である市民の皆様を受診にも深く関係する内容と言われています。そこで講演会ではこの法案を計画し、とりまとめを担った厚生労働省の医薬・生活衛生局総務課の中 雄一郎様に、この改正によって薬局が、薬剤師が、そして市民生活

がどのように変わっていくのかについて詳しく紹介していただきました。さらに最近話題のポリファーマシーや多剤併用問題に対する徳島県としての取り組みとして、徳島県保健福祉部薬務科の山岡祐美子様に「あいバッグ」を活用した医薬品の適切な管理・使用について説明いただき、最後に徳島県のジェネリック使用率は10年連続全国最下位ですが、その要因と対策について徳島県と共同研究を行った結果を徳島大学から紹介しました。

当日は一般市民の方々だけでなく、学部学生・院生、そして徳島県薬剤師会、徳島県病院薬剤師会と共催で開催したことから多くの薬剤師の先生方にもお越しいただき、活発な質疑応答を行う事ができました。ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

## アクティブリサーチ体験記



研究担当副学部長

### 小暮健太郎

Kogure Kentaro

**ア**クティブリサーチプロジェクトは、創製薬科学科1年次の研究体験演習を経て、さらに研究したいと思った学生が、希望研究室においてより高度な研究に取り組む企画である。取り組んでくれた彼らの感想を抜粋して紹介する。

〈日野谷 直人〉学生実習では得られない、技術や知識を身に付けることができ、とても有意義なものにできたと感じた。〈田中 瑛実子〉先生や先輩方に教えてもらいながら実習ではできないような実験をすることができた。不安もあったが、丁寧に指導してくださったので、安心して実験に取り組むことができた。〈金山 鈴華〉改めて研究の難しさを実感した。機会があれば、続きを行いたいと思っている。実際に授業等で疑問に思ったことを研究できてとてもよかった。〈林 隼矢〉自分が想像した以上に研究は前に進みづらいものだ理解了。反応がうまく進まない時や予想外の反応が起こった時にそれをどのように生かすかを考えるところに研究の面白さを感じた。〈柴山 歩果〉研究は多くの失敗や課題を乗り越えなければいけないということを学んだ。初めはとてもわく

わくしていたが、研究をするにつれて考えや知識は全然不足、先輩や先生の方では何もできないということを実感した。〈濱垣 舞〉研究に対する姿勢やものの考え方を教えてもらった。予想に反する結果が得られたとしても、失敗と捉えてはならない。なぜ予想と違う結果となったのか原因を追求し、利用する方法を考える、この一連の流れこそが研究であるということを学んだ。〈酒巻 祐花〉学生実習では行えない経験をすることができてとても有意義だった。研究をされている先輩方の姿をみて、そのような人材になりたいと思った。〈山出 莉奈〉非常に良い経験となった。体内現象を操るといのは困難であり、研究の厳しさを思い知った。また、自分も先生や先輩のようになりたいと強く思い、勉強や研究活動を行うモチベーションとなった。

## 新任教員挨拶



機能分子合成薬学分野 助教

### 傳田将也

Denda Masaya

**令**和2年4月1日付けで、大学院医歯薬学研究部 機能分子合成薬学分野（大高 章 教授）の助教に着任いたしました傳田将也（でんだまさや）と申します。

私は、平成23年に本学薬学部創製薬科学科を卒業後、平成28年に同大学大学院薬科学教育部機能分子合成薬学分野にて博士号（薬科学）を取得いたしました。大学在学時は有機化学を基盤としたペプチド化学の研究に従事し、学位取得後は京都大学病院にて薬剤師として勤務後、京都大学大学院薬

学研究科で特任助教として臨床教育の一端に携わってきました。今回縁あって出身研究室にて研究、教育に従事させていただくこととなり、喜びの一方で身が引き締まる思いです。私は、薬学教育の両輪は基礎研究と臨床教育だと考えています。幸運にもこの両方に従事した経験を基盤として、徳島大学薬学部が目指す「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」育成に尽力していく所存です。今後とも皆様方からのご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。



創薬理論化学分野 助教

### 稲垣 舞

Inagaki Mai

**令**和2年4月1日付けで、創薬理論化学分野の助教に着任いたしました稲垣 舞と申します。私は、慶應義塾大学薬学部薬科学科（4年制課程）を卒業後、同大学大学院薬学研究科へと進学しました。学部・大学院では胎盤研究に注力し、早産など妊娠合併症の病態研究に従事しておりました。そして、後期博士課程在学中に、薬剤師免許を取得、令和2年3月に博士（薬科学）の学位を取得し、この度ご縁があって、本学に着任いたしました。世界に名だたる研究者を輩出して

きた徳島大学において、研究・教育に携わらせていただくことに責任と喜びを感じております。本学では、血液脳関門や胎盤関門に代表される生体バリアへの薬物送達に着目した新たな研究分野に挑戦していきたいと考えております。未踏の領域を自ら開拓していける人材の育成に貢献できるよう、微力ながら尽力していく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 退任教員挨拶



製剤分子設計学分野 准教授

**奥平 桂一郎**

Okuhira Keiichiro

2020年3月を以って徳島大学を退職し、4月より大阪薬科大学衛生化学研究室教授に就任致しました。在職中お世話になった方々に、心より御礼申し上げます。2014年から約5年半にわたって薬学部製剤分子設計学分野を担当し、研究教育活動に全力で取り組んで参りました。スタッフが准教授一人の研究室で苦勞が絶えませんでしたでしたが、まわりの先生方、事務の方々のお力添えと、素晴らしい学生たちに恵まれ、振り返って大変幸福な時間を過ごすことができたと感じております。今後は皆様から頂きました沢山の教えを大切にしながら、徳島大学で得られた経験全てを糧として、次の

場所でより大きく成長できるよう、さらに努力を続ける所存です。心残りであるのは、製剤分子設計学分野を閉じることとなり、嶋林三郎先生が主宰された頃からの研究室の伝統が途絶えてしまうことです。学生たちや卒業生の皆様の場所が失われるのは大変残念であり、甚だ心苦しく感じております。ご迷惑をお掛けして誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、改めて長年のご厚情に深謝するとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



機能分子合成薬学分野 講師

**重永 章**

Shigenaga Akira

大高章先生研究室で講師をしてきた重永と申します。今年度より、福山大学薬学部教授として生体有機化学研究室を主宰しています。私は1995年に入学してから留学期間を除く24年間、徳島大学薬学部でお世話になりました。もともと血が苦手で、それでも薬学部に進学したいと高校の先生に相談したところ「徳大薬学部は工学部発祥なので動物実験はない」と言われ、この間違った情報を信じたことが徳島大学へ入学したきっかけです。しかしそのお陰で、恩師や友人と出会うことができ、同僚や学生にも恵まれ、研究や教育の大切さと面白さを知ることができました。そして、母校

で学んだことを次世代へ伝えたいと思い、このたび薬学部教授の職を得たわけですので、人生何が幸いするか分からないことを痛感しています。学生の皆様にはぜひ、思い通りの環境ではなくても拗ねずに真面目にやっていたら新しい道が拓ける（こともある）ことを、頭の片隅にでも置いておいていただければ幸いです。今後は、徳島大学で学んだことを福山大学で活かしつつ、また福山大学でこれから学ぶことを何らかの形で徳島大学へ還元し、少しでも母校と薬学の発展に貢献できればと考えています。読者の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

## 日本薬学会奨励賞を受賞して



薬品製造化学分野 助教

**猪熊 翼**

Inokuma Tsubasa

このたび2020年度日本薬学会奨励賞を拝受することができ大変光栄に思っております。選考委員の先生方に御礼申し上げますと同時に、共に研究に携わってくださった先生方、学生の皆様に深く感謝いたします。

私は元来小分子化合物を対象とする不斉合成法開発研究で学位を取得いたしましたが、本学赴任後は中分子ペプチドの合成研究に携わる機会にも恵まれ研究のフィールドを大きく拡張することができました。今回受賞対象となった『創薬テンプレート構築を指向した異常アミノ酸およびそれを含有するペプチドの合成法開発』は主に、異常アミノ酸構造を有する小分子化合物

の不斉構築と当該構造を含有する中分子ペプチドの新規合成法開発からなります。その両者を達成しこのたびの受賞に至ったのは多様な研究グループが密接な関係性のもと研究を展開している本学薬学部に籍を置いて、自らの強みを生かしつつ研究を遂行できたためであると考えております。

以上のように私は異常アミノ酸を基盤とする創薬テンプレートの新規構築法開発に成功いたしましたが、今後はこれらの技術を実験室の中だけで終わらせるのではなく社会への貢献を目指し実用化研究を進めていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしく願いいたします。

## 学生の活躍

### The 9th Junior International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry Asia に参加して



有機合成薬学分野 博士後期3年

#### 大橋 栄作

Ohashi Eisaku

2019年9月23日から25日にかけて韓国釜山市で開催されたアジア国際シンポジウム“The 9th

Junior International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry Asia”に参加しました。本会はアジア各国から優秀な若手研究者が参加する格式ある学会であり、日本の中四国支部からの口頭発表は今年が初めてでした。私は、「Studies on the Second Generation Synthesis of Palau'amine」という演題で口頭発表を行いました。拙い英語ではありましたが、全員私の研究を理解しようとしてくれていることがよくわかり、物怖じすることなく議論できました。結果的には“Oral Presentation Award”を頂き、英語での発表に大きな自信を得ました。

毎晩プレゼンテーションが終わると、おいしい食事を囲んでの交流会がありました。ここでは積極的に外国の研究者に話しかけ、研究に関することやお互いの研究室に共通する話題などで盛り上がりました。特に、私と同分野の研究室出身である中国人学生と仲良くなり、帰国後も連絡を取りあう仲になりました。英語は下手でも話せばなんとかなるということをもっと実感し、英語でのコミュニケーションに苦手意識がなくなりました。

最後になりましたが、貴重な海外旅費支援・発表の機会を与えて頂きました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



薬学部薬学科3年  
軟式テニス部

#### 上原 陸

Uehara Riku

軟式テニス部は週に2回、金曜と土曜に現在男子19人、女子13人の計32人で活動しています。主な大会とし、夏に関西薬学連合、秋に六校リーグがあります。毎年この二つの大会で団体優勝できるように日々楽しく練習に励んでいます。しかし、今年は新型コロナウイルスにより、夏の大会は中止となってしまいました。私たちにとっては引退の節目となる大会が無くなり残念ですが、次の秋の大会に向けて頑張っていこうと思います。

最後になりますが、日頃ご支援・ご声援をくださっている方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

## サークル紹介



### 薬学部行事予定

令和2年10月～令和3年3月

※薬学部行事予定は令和2年6月時点のものであり、今後変更の可能性がります。

#### 令和2年

10月1日(木)	後期授業開始
10月24日(土)～25日(日)	大学祭
11月1日(日)	第50回徳島大学薬学部 卒後教育公開講座
11月2日(月)	開学記念日
11月下旬(土)	薬学共用試験 OSCE
12月中旬	薬学共用試験 CBT
12月26日(土)～1月8日(金)	冬季休業

#### 令和3年

1月16日(土)～17日(日)	大学入学共通テスト
2月7日(日)	学校推薦型選抜Ⅱ
2月25日(木)～26日(金)	一般選抜(前期日程)
3月12日(金)	一般選抜(後期日程)
3月23日(火)	卒業式・修了式
3月25日(木)～31日(水)	学年末休業

## 薬学部関連ニュース

### 教員の異動

令和元年11月30日付退職 先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域(蛋白質発現) 山本 武範 講師  
 令和2年3月31日付退職 製剤分子設計学分野 奥平 桂一郎 准教授  
 令和2年3月31日付退職 機能分子合成薬学分野 重永 章 講師  
 令和2年4月1日付採用 機能分子合成薬学分野 傳田 将也 助教  
 令和2年4月1日付採用 創薬理論化学分野 稲垣 舞 助教



### 学会賞等受賞

#### 【教員の受賞】

##### ■康楽賞

受賞者：重永 章 講師  
 受賞年月日：2020年2月10日  
 表彰団体名：公益財団法人 康楽会  
 受賞内容：研究成果

##### ■日本薬学会奨励賞

受賞者：猪熊 翼 助教  
 受賞年月日：2020年3月25日  
 表彰団体名：日本薬学会  
 受賞内容：創薬テンプレート構築を指向した異常アミノ酸およびそれを含有するペプチドの合成法開発

#### 【学生の受賞】 (学年は受賞時)

##### ■大学院生優秀発表賞

受賞者：月本 準 (D2)  
 受賞年月日：2019年10月7日  
 表彰団体名：第18回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィオーラム2019  
 受賞内容：ヒトノイラミナーゼ1の細胞内結晶化抑制とNEU1欠損症遺伝子治療

受賞内容：Crystallinity evaluation of mechanochemically synthesized zinc chlorapatite by powder X-ray diffractometry and attenuated total reflection-infrared spectroscopy

##### ■康楽賞

受賞者：友成 奈央実(B6)、石神 昇(B6)  
 成瀬 公人(D3)、河野 滉也(M2)  
 受賞年月日：2020年2月10日  
 表彰団体名：公益財団法人康楽会

##### ■Best Poster Award for Students

受賞者：高橋 利 (B5)  
 受賞年月日：2019年10月11日  
 表彰団体名：International JAFIA 35th Anniversary Symposium & 第56回フローインジェクション分析講演会  
 受賞内容：Multivariate Analysis for Low Resolution Absorbance Peaks: An Accelerated FIA

##### ■Young Excellent Abstract Awards

受賞者：池田 真由美 (D3)  
 受賞年月日：2019年11月23日  
 表彰団体名：17th International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics

##### ■徳島大学学生表彰

受賞者：成瀬 公人(D3)、小林 大志朗(M1)  
 高橋 利(B5)、高田 春風(B6)  
 伊藤 丹(D3)、月本 準(D2)  
 受賞年月日：2020年3月16日  
 表彰団体名：徳島大学

##### ■Best Poster Award

受賞者：伊藤 丹 (D3)  
 受賞年月日：2019年10月13日  
 表彰団体名：2019 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry

受賞内容：A novel S-sulfhydrated human serum albumin suppresses reactive oxygen species induced by kidney injuries

##### ■長井賞

受賞者：高橋 千明(B6)、高橋 朔良(B4)  
 受賞年月日：2020年3月23日  
 表彰団体名：徳島大学薬学部

##### ■学生発表奨励賞

受賞者：中村 天太(B4)、岡本 龍治(M2)  
 堤 大洋(D1)、小川 允利(D4)  
 受賞年月日：  
 表彰団体名：日本薬学会中国四国支部

##### ■学部長特別表彰

受賞者：上殿 千晴(B5)、多田 篤史(B5)  
 中谷 奈津(B5)、又吉 かれん(B5)  
 森崎 実友(B5)  
 受賞年月日：2020年3月23日  
 表彰団体名：徳島大学薬学部

※注釈：氏名の右横の( )内のアルファベットは、B=学部生、M=博士前期課程、D=博士後期課程又は博士課程を指します。

### 学部等支援基金(薬学部) ご寄附のお願い

薬学部は、職種にかかわらず多様な薬学領域の様々な分野に対応可能な人材「インタラクティブYAKUGAKUJIN」育成を教育理念とし、薬学の新たな未来の創造に貢献するため、教育研究活動を推進しています。このような取組を発展させるため、薬学部・薬科学教育部における教育研究、国際交流及び社会貢献等の様々な活動に基金を活用させていただく予定です。皆さまからの

ご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●お申込み方法等、詳しくはホームページをご覧ください。



<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/foundation/>

### 編集後記

薬学部6年制の開始以降、徳島大学では一括入試による募集を行なってきましたが、2018年度から分割入試へと変わり、2021年度からは6年制一本化へと移行します。制度は変わって

も、「医療を理解した創薬研究者」および「研究が出来る薬剤師」を育成するという教育理念に変わりはありません。今後も徳島大学薬学部独自の新たな教育研究プログラムにご期待ください。  
 (広報委員長 難波康祐)

発行：徳島大学  
 編集：薬学部広報委員会  
 広報委員：難波康祐、藤野裕道、植野 哲  
 佐藤陽一、中山 淳、北池秀次

URL：https://www.tokushima-u.ac.jp/ph/  
 〒770-8505 徳島市庄町1丁目78-1  
 徳島大学蔵本事務部薬学部事務課総務係  
 E-mail：isysoumu3k@tokushima-u.ac.jp

●皆様のご意見、ご要望、エッセイ、写真、絵画、漫画などご投稿を歓迎します。どしどしご応募くださいますようお願いいたします。次回の発行は、令和2年の12月頃を予定しております。